20200106

# 血液化学検査器 簡易操作ガイド IDEXX **カタリスト One**<sup>™</sup>



0

•

•

•

•

•

C

۲

•

111
シー

はじめに  $\bullet$ 本体について

第1章:検査の準備と実施	
1-1:ミニキーボード使用方法および画面入力方法	5
1-2: 試薬スライドの保存および準備について	6
1-3:サンプル準備	7
1-4:患者情報入力と測定	8
1-5:検査のキャンセル	10
1-6:希釈測定	11
1-7:ステータスランプについて	13
1-8:アラート(お知らせ)について	13
1-9:機器のスタンバイモードについて	14
1-10:本体の電源オフと起動	15
第2章:メンテナンス	
2-1:機器内部の清掃	16
2-2:スライド排出トレーの清掃	19
2-3:サンプルトレーの清掃	19
2-4:品質管理(QCテスト)の定期実施	20
2-5:ソフトウェアアップグレード方法	22
2-6:キャリブレーション (較正) について	23
第3章:トラブルシュート	
3-1:ベットラボ ステーションとの通信トラブル	24
3-2:スライド排出エラー対処方法	25
3-3:イベントログの確認方法	25
第4章:補足資料	
4-1:必要検体量一覧表、SDMAセット、試薬クリップの詳細	26
4-2: 試薬スライド、クリップ、その他の専用備品の保存方法 一覧表	28
4-3:試薬スライド・クリップをセットする順番	29
4-4: NH₃スライド ご利用上の注意	31
4-5:電解質検査用試薬 Lyte4クリップ ご利用上の注意	32
4-6:UPC(尿中タンパク/クレアチニン比)試薬 ご利用方法	33
4-7:総サイロキシン(トータルT₄)試薬 ご利用方法	34
4-8:C反応性蛋白(CRP) 試薬 ご利用方法	35
4-9:対称性ジメチルアルギニン(SDMA)試薬 セットご利用方法	36
カタリスト 参考基準値一覧表	37
カタリスト測定可能範囲一覧表	38
「お客様専用サイト」のご案内	39
ご利用上の注意	40

ご利用上の注意

З

はじめに

この簡易操作ガイドは、IDEXX カタリストOneを正しくご使用いただく為の必要事項、および、基本操作のみ抜粋して作成しております。

□ 本体の起動について

本操作ガイド「第1章1-9:機器のスタンバイモードについて」 または 「第1章1-10:本体の電源オフと起動」を参照ください。

ロ バージョンのアップグレード
 カタリストOneは、スマートサービスにてアップグレードされます。
 アップグレード操作が必要な際はメッセージが出ますので、画面に従って操作をすると、
 アップグレードができます。
 詳細は、「第2章 2-5:ソフトウェアアップグレード方法」をご確認ください。

□ ベットラボ ステーションとの通信

カタリストOneはベットラボステーションと通信を取っています。 ベットラボステーションのアイコンが緑色になっていれば通信が取れている状態です。 黒色の場合はオフライン状態ですので、検査前にご確認ください。



ご不明な点がございましたら、アイデックス テクニカルサポートまでご連絡ください。 電話:0120-71-4921(自動音声案内1番) 平日:9:00~20:00 土曜・日曜:9:00~18:00 FAX:0120-71-3922

# ステータスランプ このLEDランプで機器の状態をお知らせします。 詳細は、「第1章1-7ステータスランプについて」 をご確認ください。 スタートボタン 測定を開始するときに押します。 また電源管理や機器をリセットするときにも使用します。 サンプルトレー 試薬スライド、ピペットチップなどの検査に 必要な消耗品をセットします。 ロックライト 検査中などの光っている状態では、 サンプルトレーにロックがかかり開けられません。 スライド排出トレー

使用された試薬スライド、ピペットチップなどの 消耗品がここに排出されます。

### 側面



清掃などのメンテナンス時や、 トラブルシューティング時のみ開いてください。



背面

### 第1章:患者情報の入力とキャンセル

ロ1-1:ミニキーボード使用方法および画面入力方法

キーボード入力方法



- 半角/全角キーとALTキー

   <u>Altキーを押しながら</u>半角/全角キーを押すことで、日本語(ひらがな)と
   英語(半角英数字)の切替
- ② スペースキー:日本語入力時の文字変換
- ③ Tabキー:カーソルの移動
- ④ Enterキー:日本語入力時、入力文字の確定
- ⑤ Capsキー:アルファベットを大文字で入力

患者情報入力画面	【*】マークがついている項目は <mark>必須入力</mark> です。 【*】マークの項目を全て入力しないと【次へ】が押せません。
★ 新規患者	? 1:57 AM
患者名*(1)     オーナー:名字(2)     オーナー:名前(3)       IDEXX     アイデックス     ズットラポステーショ	
動物種 * ⑤	キャンセル
犬      年齢 6       ライフステージ*     7     5       成犬	年 / 月 / 日 年齢により基準値が異なります。 6ヶ月未満(幼犬、幼猫)
品種 アーフェンピンシャー 雄	

- ① 患者名: 全角カタカナで入力必要
- ② オーナー名字:半角英数字、全角カタカナで入力必要
- ③ オーナー名前:半角英数字、全角カタカナで入力必要
- ④ オーナーID(カルテ番号など):半角英数字で入力必要
- ⑤ 動物種:プルダウンから選択
- ⑥ 年齢、もしくは生年月日:半角英数字で入力必要
- ⑦ ライフステージ:プルダウンから選択
- ⑧ 性別:プルダウンから選択
- 注意 カタカナ入力後、必ずEnterキーを押して、入力を確定してください。 項目を移動したい場合は、確定後にTabキーにて移動してください。

### □1-2: 試薬スライドの保存および準備について

● 試薬スライド保存方法



冷蔵、または冷凍保存です。 試薬スライドごとに異なりますので、箱に記載された保存方法に従ってください。 ※本操作ガイド 「第4章 4-2:試薬スライド、クリップ、その他備品の 保存方法 一覧表」も併せてご参考ください。

● 試薬スライド準備



ご使用前に室温に戻す必要はありません。 冷蔵、または、冷凍の状態からそのまま使用できます。 必ず、開封後から5分以内にご使用ください。 電解質検査用 Lyte4クリップのみ開封後から2分以内にご使用ください。 クリップの場合、セットから外さず、そのままご使用ください。 ※Lyte4クリップは他の試薬スライドやクリップと取扱い方法が若干異なります。 本操作ガイド「第4章 4-5:電解質検査用試薬Lyte4クリップご利用上

の注意」も併せてご参考ください。

● 専用消耗品





● 特殊スライド専用消耗品
 UPC専用希釈

(室温保存)



CRP試薬 (冷蔵保存)



全血セパレーター

SDMA試薬セット (冷蔵保管)









● ピペットチップ準備



カタリスト専用ピペットチップを サンプルトレーにセットしてください。

### ロ1-3:サンプル準備(全血、血清、血漿、尿の検体)



- ◎ 採血はプレーンのシリンジで行ってください。
- ② 全血セパレーターを使用しない場合は、必ずカタリスト専用のサンプルカップに血漿、 血清を移して検査を行ってください。気泡の混入にお気をつけください。 ※14項目以上の検査を行う場合は、付属のマニュアルピペット(300 µl)を 使用することをお勧めします。
- ◎ 全血セパレーターを使用の場合に、サンプルの状態により血漿量が変動しますので、 全血セパレーターに分注する量にご注意ください。(必要量600~800 µl) <u>「第4章 4-1 必要検体量の一覧表、クリップの詳細」もご確認ください。</u>
- (UPC検査)



1. 採尿したのち、 プレーンチューブ に移し替えてくだ さい。



下記ご参照)

2. 遠心分離器で成分を 3. 分離したのち、 分離してください。 上清300น1を (遠心速度と時間は サンプルカップに 移してください。

- ◎ 穿刺による採尿をお勧めします。自然排尿、カテーテルによる採尿でも検査は可能です。
- ◎ 遠心分離器の速度と時間は、5分/2,000 rpmで設定ください。 スタットスピンをご使用の際は、尿モードを設定ください。(45秒/9,800 rpm)
- ◎ 分離した尿の液体成分をサンプルカップに移す時は、付属のマニュアルピペット (300 µl)を使用することをお勧めします。

#### □1-4:患者情報入力と測定(各項目入力後はEnterキーを押してから次に進んでください)

- 1. ベットラボステーションから患者情報を入力します。
  - ①【検査】を押します。 ②【患者登録】を押します。 ③ 必須事項(\*)を入力し【次へ】を押します。



- 2. ベットラボステーション画面とカタリストOne本体で検査の準備をします。
  - A) Chem 1 7/1 5/1 0、Lyte 4 クリップ、NH3 (アンモニア) やその他の単項目を測定する場合
    - ・UPC試薬を測定する場合は、以下のB)をご参考ください。
    - ・トータルT4試薬、CRP試薬、SDMA試薬を測定する場合は、以下のC)をご参考ください。
    - ①「検査機器の選択」画面で、 カタリストOneのアイコンを選択します。

② サンプルトレーを開き、測定に必要な試薬スライドや 備品をセットします。(下の図を参照)

試薬スライド/クリップ







⑤ 測定終了後、検査結果が ベットラボステーション に転送されます。



#### <u>注意事項</u>

- ・NH3スライドの取り扱いに関して、必ず事前に本操作ガイド 「第4章 4-4:NH<sub>3</sub>スライド ご利用上の注意」をご確認ください。
- ・Lyte4クリップの取り扱いに関して、必ず事前に本操作ガイド 「第4章 4-5:電解質検査用試薬 Lyte4クリップ ご利用上の注意」 を確認ください。

#### B) UPC試薬を測定する場合

- ※ 専用の消耗品(試薬)を必要とし、セット箇所も通常の測定と若干異なります。 必ず事前に、本操作ガイド「第4章 4-6:UPC(尿タンパク/クレアチニン比) 試薬 ご利用方法」をご確認ください。
  - (1)「検査機器の選択」画面で、
     カタリストOneのアイコンを選択後、
     【UPC測定】を押します。



 「UPCの手順説明」画面に従い、必要 なサンプルと備品をサンプルトレーに セットします。



⑤ サンプルトレーを閉じ、 【測定】を 押します。測定が開始します。





②「UPC尿蛋白/クレアチニン比」の画面が現れたら、 【手順説明】を押します。



③「UPCの手順説明」画面に従い、必要 ④ サンプルトレーを閉じてから【OK】を押します。



⑥本体のステータスランプが黄色に点滅したことを 確認し、本体のスタートボタンを押します。



⑦ 測定終了後、検査結果がベットラボステーションに転送されます。



- C) トータルT4 試薬、CRP試薬、SDMA試薬を測定する場合
- ※ 専用の消耗品(試薬)を必要とし、セット箇所も通常の測定と若干異なります。 必ず事前に、本操作ガイド
  - ・「第4章 4-7:総サイロキシン(トータルT4)試薬ご利用方法」
  - ・「第4章 4-8:C反応性タンパク(CRP) 試薬 ご利用方法」
  - ・「第4章 4-9: 対称性メチルアルギニン (SDMA) 試薬 セットご利用方法」 をご確認ください。
  - (1)「検査機器の選択」画面で、
     カタリストOneのアイコンを選択します。

② サンプルトレーを開き、測定に必要な試薬スライドや 備品をセットします。(下の図を参照)



③ サンプルトレーを閉じ、【測定】を押します。

- ④本体のステータスランプが黄色に点滅したことを確認し、本体のスタートボタンを押します。 測定が開始します。
- ⑤ 測定終了後、検査結果がベットラボステーションに転送されます。

#### □1-5:検査のキャンセル



● 検査待ちの状態である黄色、緑色のアイコンから検査を中止することもできます。
 ① ベットラボ ステーション面上の
 ② 【測定中止】を押します。
 カタリストOneのアイコンを押します。







試薬スライド 試薬カップ

□1-6:希釈測定

• 自動希釈

### Lyte4クリップ/NH<sub>3</sub>/UPC/トータルT<sub>4</sub>/FRU/SDMA は希釈測定ができません。

- ・希釈には**生理食塩水**をご利用ください。
- 希釈測定を選んで測定した検査結果は、選択した倍率で計算をした結果が表示されます。
- ・希釈倍率は、2倍、4倍、6倍、10倍をご利用いただけます。
- 患者情報を入力後、カタリストOneの アイコンを選択し、【希釈測定】を を選択します。



③ 画面に従い、自動希釈測定に必要な サンプル、消耗品をサンプルトレーに セットします。サンプルトレーを閉じ、 画面の【OK】を押します。

②【自動】を選択し、倍率を設定します。その後、【手順説明】を押します。



④ 【測定】を選択し、機器本体のスタートボタンを 押して、測定を開始します。



#### 自動希釈倍率表

圣和法委	サンフ	プル量	圣细法	検査可能
布秋后半	血清・血漿	全血	ተከ አየር ለሂ	項目数
2倍希釈	155 μl	700 μl	300 µl	5
4倍希釈	130 µl	700 μl	300 µl	10
6倍希釈	130 µl	700 μl	300 µl	10
1 0倍希釈	100 µl	700 μl	300 µl	10

#### ※サンプル量は、必要最低量です

#### • 手動希釈

#### Lyte4クリップ/NH3/UPC/トータルT4/FRU /SDMA は希釈測定ができません。

- ・手動希釈モードを選択時は、お手元で検体を希釈が必要です。
- ・希釈には生理食塩水をご利用ください
- •希釈測定を選んで測定した検査結果は、選択した倍率で計算をした結果が表示されます。
- ・希釈倍率は、2倍~10倍をご利用いただけます。
- ① 患者情報を入力後、カタリストOne の アイコンを選択し、【希釈測定】を 選択します。



③ 画面に従い、手動希釈測定に必要な サンプル、消耗品をサンプルトレーに セットします。サンプルトレーを閉じ、 画面の【OK】を押します。



②【手動】を選択し、倍率を設定します。その後、【手順説明】を押します。



④ 【測定】を選択し、機器本体のスタートボタンを を押して、測定を開始します。



※ 手動希釈モードで測定時の検体量は、 本操作ガイド「第4章 4-1 必要検体量の一覧表、クリップの詳細」をご確認ください。

### □1−7:ステータスランプについて

ランプの色	光り方	機器の状態
	点灯	準備完了:操作可能な状態です。
緑色 ゆっくり 点滅		スタンバイ状態:操作するにはスタンバイの解除 が必要です。
		準備中:検査前などに準備を行っています。
黄色	点灯	処理中:初期化、自動メンテナンス等の処理中で す。
	点滅	情報受信済:検査情報をベットラボステーション から受け取りました。
赤色		問題発生:指示された処理を行えない状態です。
光角	<b>光無し</b> オフライン	

本体正面の中央にLEDランプがあり、その色や光り方で機器の状態をお知らせします。

### ロ1-8:アラート(お知らせ)について

ベットラボステーションや機器本体から指示した処理を正しく実施できない状態になると、 ステータスランプが赤く点滅し、アラートを発してお知らせします。 その場合は、ベットラボステーションの画面に現れたメッセージを確認するか、 画面上のカタリストOneのアイコンを押してメッセージを確認してください。

また、このアラートの音量は以下の方法で「大」、または、「小」を選択できます。



- ベットラボステーションの【機器操作】を押し、 「Catalyst One」を選択します。
- ②「操作音設定」欄で、【オフ】、【音量:小】、【音量:大】の いずれかを選択します。

### □1-9:機器のスタンバイモードについて

機器を使用しない時間に本体をスタンバイモードにし、省電力化することができます。 カタリストOneの電源管理は、スタンバイモードを推奨します。



#### □1-10:本体の電源オフと起動

カタリストOneの電源管理は、スタンバイモードを推奨していますが、 下記のスタートボタンでも本体の電源オフと 起動 が可能です

#### スタートボタンからの本体の電源オフと起動

■電源オフ(オフライン状態)

機器本体のスタートボタンを、ステータスランプが消えるまで長押しします。 カタリストOneのアイコンはオフラインになります。



■起動

機器本体のスタートボタンを1回押します。

15秒以内にステータスランプがつき、10分以内に機器が立ち上がります。
 ※ 起動時に必ず「排出トレーは満杯です」とメッセージがでます。
 トレーの中を空にしてトレーを閉めてください。

#### 【注意事項】

【シャットダウン】 について

- ・<u>本体を移動するとき</u>・長期使用しないとき・トラブルシュートのときに使用します。
- ・【シャットダウン】を選択すると、正面のスタートボタンを押しても起動しません。 本体背面の電源アダプターの抜き差しをして起動してください。



# 第2章:メンテナンス

ロ2-1:機器内部の清掃

#### ■内部清掃の手順

少なくとも 月に一回、またはそれ以上 機器内部の清掃 が必要です。 お知らせで「クリーニング必要」などメッセージが出た場合も機器内部清掃が必要です。 清掃でエラーが解消しない場合はテクニカルサポートまでご相談ください。

① ベットラボ ステーションの ②「Catalyst One」を選択し ③【クリーニング】を 【機器操作】を押します。 【メンテナンス】を押します。 押します。 **非禁:小** 自是:大 PHER Test 2 8 8 4

④ アルコールプレップパッとオプティカルティッシュを用意し、【次へ】を押します。



⑤ローターを取り出し、【次へ】を押します。







サイドドアを開け、ローター カバーを矢印の方向に上げます。 ・ローターの緑色の部分を持ち上げ て、ローターを取り出します。

⑥ 取り出したローターと、ローターをセットしている機器内部を清掃し、【次へ】を押します。



 アルコールプレップパッドを使い、ローター と ローターをセットしている 機器内部の汚れを拭き取ります。 最後にオプティカルティッシュで乾拭きします。

※詳細は、以下の クリーニングの4つのポイント を参照ください

⑦ローターを元の位置に戻し、ローターカバーを「カチッ」と音がするまで下げます。 サイドドアを閉じ、【完了】ボタンを押します。



### ■クリーニングの4つのポイント

### <u>ローター</u>

1. <u>白いパネル</u>

:アルコールプレップパッドで拭き取り、オプティカルティッシュで乾拭きします。



- 2. <u>黒いエバポレーション キャップ</u>
  - : エバポレーションキャップを 開けた状態 と 閉めた状態 で、アルコールプレップパッド で 拭き取り、オプティカルティッシュ で乾拭きします。
    - ① エバポレーションキャップ18ヵ所すべて開けた状態にします。



②赤い部分を拭きます。



④赤い部分を拭きます。



③ 次に、キャップをすべて閉めた状態にします。



⑤ 汚れが取れるまで①~④を繰り返します。
 最後は キャップを閉めた状態にします。



#### <u>ローターをセットしている機器内部</u>

- 3. <u>サーキット</u>
  - : 反時計回りに拭き取ります。

<u>こびりついたかたまりや粉を</u>拭いても取れない場合は、爪や木の爪楊枝や割り箸の先 などで剥がしてください。剥がした後は、アルコールプレップパットで拭き取り、 オプティカルティッシュで乾拭きをしてください。※鉗子などの金属は使用しないでください。



※ こびりついた筋状の かたまりや粉は汚れです。

4. <u>光学レンズ</u>

: **サーキットの清掃後、**拭き取ります。

<u>こびりついたかたまりや粉を</u>拭いても取れない場合は、爪や木の爪楊枝や割り箸の先 などで剥がしてください。剥がした後は、アルコールプレップパットで拭き取り、 オプティカルティッシュで乾拭きをしてください。※鉗子などの金属は使用しないでください。



※ 傷のように見えますが、内部で乾いて筋状になった 汚れのため除去してください。※ レンズの縁の白い粉も除去してください。

### ロ2-2:スライド排出トレーの清掃

<u>排出トレー</u>に入った試薬スライドやピペットチップを定期的に廃棄、トレーの清掃をしてください。



白いトレーを引き出してください。

3から5検査ほどで一杯になります。

- ・トレー内に汚れが付着している場合、
  - アルコール綿などで拭き取ってください。
- ・廃棄、清掃後はトレーを奥まで入れてく ださい。

### □ 2-3:サンプルトレーの清掃

サンプルトレーを定期的に、また汚れている場合は清掃してください。 下記部分をアルコールプレップパッドで拭き取り、オプティカルティッシュで乾拭きをします。

- ・ 遠心機部分とサンプルカップセット部分
- ・ピペッターチップセット部分と周辺
- ・スライドセット部分
- ・試薬カップセット部分と希釈液などセット部分
- ・サンプルトレー全体
- ※ 血液の汚れが様々な場所に付着している場合は、テクニカルサポートまでご連絡ください。 機器内部の部品(ロックバー)の清掃方法をご案内します。



### □ 2-4:品質管理(QCテスト)の定期実施

月に1度の機器内部の清掃後などの定期的な実施を推奨しています。また、機器や試薬の 品質管理を行う際にも実施してください。

実施の手順として、ベットロールコントロール液の準備後、機器操作が必要です。

#### ■ 測定に必要な備品

ベットロールコントロール液 QCクリップ、Lite4クリップ

※または、精度管理でチェックしたい項目

■ ベットロールコントロール液の準備

#### 注意:ベットロールコントロールは冷凍保存してください。 冷蔵の環境で24時間以上の保管は避けてください。

- 1. 凍結乾燥状態のコントロール血清バイアル(紫キャップ)と希釈液バイアル(白キャップ) を各1バイアル取り出します。室温になるまで、常温で60~90分間放置します。
- 希釈液バイアルを静かに転倒混和し、内容が均一になるようにします。
   ※決して泡立てないでください。
- 3. コントロール血清バイアルを数回たたき、栓の内側についた粉末を落とします。
- コントロール血清バイアルおよび希釈液バイアルの銀色のシールと栓を外します。
   ※バイアルの栓を開けたまま放置しないでください。
- ピペットを使用して希釈液を3 ml 正確に取り、コントロール血清バイアルに静かに 移します。残った希釈液は破棄してください。
   ※ 3 mlの計測にあたり、お手持ちのマイクロピペッターをご使用ください。 または、機器に付属しています300 µlピペッターを10 回ご使用しても良いです。
   ※ 厳密な検量が必要とされるため、シリンジの使用は極力控えてください。
- 6. コントロール血清バイアルに栓をしっかりと閉めて、ゆっくりと転倒混和します。 時々転倒混和しながら45~60分室温に放置します。使用前に、凍結乾燥粉末が全て溶解 していることを確認してください。 ※決して泡立てないでください。
- 7. カタリストOneで測定を行います。すぐに測定しない場合、コントロール液はしっかりと栓をした状態で冷蔵保存します。使用する前は必ず室温に戻し、数回転倒混和してから使用してください。
- 8.24時間経過したコントロール液は廃棄してください。



- ベットロールコントロール液の安定性と取り扱い
  - ・調整後は冷蔵保管(2~8℃)で最大24時間まで使用可能です。
  - ・CKおよびNH<sub>3</sub>に関しては、溶解後2時間以内に使用してください。光に当たると T-Bil値 およびCK値に影響を及ぼします。NH<sub>3</sub>値は、時間の経過と共に上昇します。

#### ■ ベットロールコントロール液の測定方法

ベットロールコントロール液の準備ができましたら下記手順で測定をします。



④ 使用するベットロールのロットを選択後、【QC測定】を押します。
 ※ ベットロールのロットは茶色遮光瓶のシールに記載されています。



⑥ 測定終了後、結果が全て基準値に入っていることご確認します。 標準値から外れているまた標準値が出ない場合は、弊社アイデックステクニカルサポートまで ご連絡ください。

### □ 2-5: ソフトウェアアップグレード

カタリストOneは、**年に数回ソフトウェアアップグレードが必要**です。

アップグレードには、機器の機能改善やスライドの新しいロット情報の更新が含まれます。 早めにアップグレードを行ってください。

【注意】アップグレード中は機器の利用ができません。

- 15~30分かかることがありますので、診察時間外の実施をおすすめします。 ※ アップグレードを行う前もしくは普段よりデータのバックアップを行ってください。 ※ アップグレード用USBはアップグレード完了後、破棄してください。
- ※ アップグレードが完了するまで、カタリストOneとベットラボステーションの 電源は切らないでください。

#### ■ソフトウェアバージョン確認方法

- ①【機器操作】→「Catalyst One」の順に選択します。
- ② 画面上の ソフトウェアバージョン と 較正の情報 を確認します。
   ※ 最新のソフトウェアバージョンの確認は、テクニカルサポートへ連絡をお願いします。

#### ■アップグレード方法

(スマートサービス経由で更新)

「Catalyst One」アイコンに赤色の「お知らせ」でアップグレードの通知が出ている場合 【今すぐ更新】を選択します。

※ アップグレードがスタートし、カタリストOneは自動で再起動します。

(アップグレード用USBで更新)

- ①【機器操作】→【ソフトウェアアップグレード】の順に選択します。
- ② アップグレードUSBをベットラボステーション本体のUSB差し込みへ挿入し、
   少し待って【USB】を選択します。
  - ※ ① ②を実施するだけで自動でアップグレードが進む場合もございます。
- ③「Catalyst One」アイコンが赤色の「お知らせ」でアップグレードの通知が出ている場合
   【今すぐ更新】を選択します。
  - ※ アップグレードがスタートし、カタリストOneは自動で再起動します。
- アップグレードが完了時「排出トレーは満杯です」とメッセージが表示されます。
   排出トレーを出し入れをしてください。
- 【アップグレードは後にする】を選択した場合、後から更新を行うことができます。
   ※【機器操作】→「Catalyst One」の順に選択、【今すぐ更新】を選択してください。

### □ 2-6: キャリブレーション (較正) について

カタリストOneは、機器内部の汚れを検知すると、クリーニングやキャリブレーション(較正) を促すメッセージを出します。クリーニング実施後も同様のメッセージが続く場合、キャリブ レーション用スライドを使用して較正が必要な場合があります。

注意)キャリブレーションを実施する際は、事前にテクニカルサポートへご連絡ください。

#### 【キャリブレーション方法】

**注意)**キャリブレーションを実施する前は必ず機器内部清掃の実施が必要です。 ※ 方法は、「第2章 2-1:機器内部の清掃」をご確認ください。

(1 ベットラボ ステーションの ②「Catalyst One」を選択し ③ 【較正】を選択します。
 【機器操作】を押します。
 【メンテナンス】を押します。



- ④ 200ステップが画面に出ます。
  - 1.「本体のクリーニングを実行」の画面で【次へ】を選択します。



・クリーニング実施が未だの場合、【手順説明】を押し、
 機器内部の清掃をお願いします。
 清掃方法は、「第2章 2-1:機器内部の清掃」をご確認ください。

2.「備品をセット」の画面で、指示通りにキャリブレーション用スライドをセットします。 サンプルトレーを閉じてから、スタートボタンを押し、最後に【完了】を選択します。



※ キャリブレーション用スライド使用後のお願い 使用済みのキャリブレーション用スライドは廃棄し、テクニカルサポートまでご注文を お願いします。

### 第3章:トラブルシュート

問題が発生した場合は、ベットラボステーション画面にメッセージが出ます。 そのメッセージに従い、対処してください。 問題が解決しない場合は、弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。 電話:0120-71-4921(自動音声案内1番)

□3-1:ベットラボステーションとの通信トラブル

- - ② ベット ラボステーションが起動後も、オフラインの場合カタリストOneを再起動します。
     1.スタートボタンを長押しして電源を切ります。
    - 2. スタートボタンを一回カチッと押して起動します。(短押し)



■ ステータスランプが消灯している場合



スタートボタンを一回カチッと押します。(短押し)
 ステータスランプが点灯しない場合、カタリストOne背面の電源コードを抜き挿しします。



### ロ3-2:スライド排出エラー対処方法

- ①サイドドアを開き、緑色のレバーを持ち上げます。
- ② ローターの緑色部分を持ち上げローターを取り出し、中に詰まっているスライドを 取り除いてください。

### ロ3-3:イベントログの確認方法

- ① ベットラボステーション画面 ② 「Catalyst One」を選択し、 ③ 検査中などに発生した 中央の**【機器操作】**を押します。 【イベントログ】を押します。
  - トラブルが時系列に並んで いるのでご参考ください。



### 第4章:補足資料

□ 4−1:必要検体量一覧表、試薬クリップの詳細

必要検体量

■ 全血:必要量600~800µl カタリスト専用の全血セパレーターを使用時の検体量です。 全血セパレーターを使用の場合、検体の状態により血漿量が変動するため、 分注する量にご注意ください。

■ 血清・血漿量

スライド数	検体量 (μL)	Lyte4 (µL)	QC CLIP (µL)	Chem 10 (µL)	Chem 15 (µL)	Chem 17 (µL)
1	60					
2	70					
3	80	80				
4	90					
5	100					
6	110		110			
7	120			120		
8	130					
9	190					
10	200					
11	210					
12	220				220	
13	230					
14	240					240
15	250					
16	260					
17	270					
18	280					

※トータルT4試薬、CRP試薬、SDMA試薬の測定時の血漿/血清量

・単独で測定する場合
 トータルT4試薬 または SDMA試薬: 65 µl

CRP試薬 :100 µI

・他のスライドと一緒に測定する場合

<u>トータルT₄</u>]

 CRP
 試薬スライドを含むスライドの合計枚数の検体量 +15µl

 SDMA
 →検体量は上の表を参照
 (または +30µl)

例) 試薬スライド1 枚含む場合

トータルT₄ + 他のスライド7枚=合計8枚 →130µl+15µl=145 µl

例)試薬スライド2枚含む場合

トータルT<sub>4</sub> + CRP + 他のスライド7枚=合計9枚→190µl+30µl = 220 µl

#### ■尿量:300 µl(UPC検査用)

## 血液化学スクリーニング検査用セット(SDMAセット)内容と用途

セット名	セット内容	用途
Chem 18 犬用 スクリーニングセット	Chem 17クリップ SDMAスライド	スクリーニング検査 健康診断 術前検査
Chem 16 猫用 スクリーニングセット	Chem 15クリップ SDMAスライド	スクリーニング検査 健康診断 術前検査
Chem 11 子犬・子猫用 スクリーニングセット	Chem 10クリップ SDMAスライド	健康診断 術前検査
腎機能(GFR)評価セット	BUNスライド CREAスライド SDMAスライド	腎臓病モニタリング 腎臓病以外の疾患での 腎機能評価

\*クリップに含まれる検査項目は以下「試薬クリップ詳細」をご参照ください

### 試薬クリップ詳細

※構成内容で実際セットされている順番ではありません。

	Chem17 クリップ	Chem15 クリップ	Chem10 クリップ	Lyte4 クリップ
	TP	ТР	ТР	Na
	ALB	ALB	ALB	К
	ALT	ALT	ALT	CL
	ALKP	ALKP	ALKP	
	GGT	GGT		
	TBIL	TBIL		
1 <b>1</b> 17	CHOL	CHOL		
坝口	GLU	GLU	GLU	
	AMYL			
	LIPA			
	BUN	BUN	BUN	
	CREA	CREA	CREA	
	PHOS	PHOS		
	CA	CA		
	ALB/GLOB	ALB/GLOB	ALB/GLOB	Na/K
演算項目	GLOB	GLOB	GLOB	Osm Calc
	BUN/CREA	BUN/CREA	BUN/CREA	

Lyte4クリップとBUN、GLUを同時に測定するとOsmCalc(浸透圧)が演算されます。

# ロ 4-2: 試薬スライド、クリップ、その他の専用備品の保存方法 一覧表

	要冷凍	要冷蔵
	Chem17クリップ	
	Chem15クリップ	
クリップ	Chem10クリップ	
	Lyte4クリップ	
	QC クリップ	
	AMYL(アミラーゼ)	ALB (アルブミン)
	AST(GOT) (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)	ALKP(アルカリフォスファターゼ)
	CHOL(コレステロール)	ALT(GPT) (アラニンアミノトランスフェラーゼ)
	CK(クレアチンキナーゼ)	BUN(尿素窒素)
	CREA(クレアチニン)	Ca(カルシウム)
スライド (単項目)	LIPA(リパーゼ)	GGT(ガンマグルタミルトランスフェラーゼ)
	Mg(マグネシウム)	GLU(グルコース)
	NH₃(アンモニア)	LDH(乳酸脱水素酵素)
	TBIL(総ビリルビン)	PHOS (無機リン)
	UPC(尿中タンパク/クレアチニン比)	TP(総蛋白)
	FRU(フルクトサミン)	TRIG(トリグリセライド)
		URIC(尿酸)
スライドと 試薬カップ <sup>※スライドと試薬が1つ</sup> のセットになっている		総サイロキシン (トータルT₄)
		C反応性蛋白(CRP)
		対称性ジメチルアルギニン(SDMA)

	室温
検査専用備品	UPC専用希釈液

### □ 4-3: 試薬スライド・クリップをセットする順番

試薬スライド・クリップをセットする順番が決まっています。 基本的に、NH₃は最初(一番下)、Lyte4はNH₃の次にセットが必要ですが、組合せによって 一部例外があります。 詳しくは、使用するChemクリップ別にご確認ください。

- ・ Chem 10を使用する場合は、以下のA)を参照ください。
- ・ Chem 15を使用する場合は、以下のB)を参照ください。
- ・ Chem 17を使用する場合は、以下のC)を参照ください。
- ・ Chemクリップを使用しない場合は、以下のD)を参照ください。
- ・ GFR評価セットを使用する場合は、以下のE)を参照ください。
- A) Chem10クリップを使用する場合

基本的に、NH₃は最初(一番下)、Lyte4はNH₃の次にセットします。

基本の順番

順番		
	7番目	SDMA
上	6番目	CRP
	5番目	TT4
	4番目	単項目 (NH₃以外)
	3番目	Chem10
不	2番目	Lyte 4
	1番目	NH₃

※ Chem10クリップ測定後にNH3を測定した際に、NH3に関するメッセージが出ることがございます。 「第4章 4-4:NH3測定時の注意事項」をご確認ください。

#### B) Chem15クリップを使用する場合

① NH<sub>3</sub>あり/Lyte4無しの場合

順	番	
1	6番目	SDMA
Г	5番目	CRP
	4番目	TT <sub>4</sub>
	3番目	単項目 (NH₃以外)
т	2番目	NH₃
r	1番目	Chem15

② ①以外の場合

順番		
	7番目	SDMA
上	6番目	CRP
	5番目	TT <sub>4</sub>
	4番目	単項目 (NH₃以外)
	3番目	Chem15
下	2番目	Lyte 4
	1番目	NH₃

C) Chem 1 7 クリップを使用する場合
 基本の順番

順番		
	7番目	SDMA
上	6番目	CRP
	5番目	TT <sub>4</sub>
	4番目	単項目 (NH₃以外)
	3番目	Chem17
不	2番目	Lyte 4
	1番目	NH₃

- D) Chemクリップを使用しない場合
  - 基本の順番

順	番	
	8番目	SDMA
	7番目	CRP
上	6番目	TT <sub>4</sub>
	5番目	単項目 (NH₃以外)
	4番目	BUN
7	3番目	TP
	2番目	Lyte 4
	1番目	NH₃

② NH3無し・Lyte4無し

順番			
	7番目	SDMA	
	6番目	CRP	
上	5番目	TT <sub>4</sub>	
	4番目	単項目 (NH <sub>3</sub> 以外)	
	3番目	BUN	
	2番目	TP	
	1番目	単項目1枚 (NH₃以外)	

- ※ 2~9番目の間にTPとBUNをセットを推奨しています。
- ※ TPまたはBUN測定後にNH3を測定した際に、NH3に関するメッセージが出ることがございます。 「第4章 4-4:NH3測定時の注意事項」をご確認ください。
- E) 腎機能(GFR) 評価セットを使用する場合

#### 基本の順番

順	番	
上	3番目	SDMA
	2番目	BUN
下	1番目	CREA

- ※ 1番目にCREを2番目にBUNをセットを推奨しています。
- ※ BUN測定後にNH3を測定した際に、NH3に関するメッセージが出ることがございます。 「第4章 4-4:NH3測定時の注意事項」をご確認ください。

#### □ 4-4:NH3測定時の注意事項

- 測定について
- ・ NH₃はTPやBUNの測定時に生じる化合物・分解された物質の影響を受けます。
- カタリストOneには、NH₃の値を正確に出すため、これらの影響を受けた可能性がある場合、 お知らせでエラーメッセージを表示する機能がございます。
- メッセージが表示された場合、NH<sub>3</sub>の結果のみ表示されません。
- NH<sub>3</sub>のエラーが出る仕組みについて
- 試薬スライド・クリップをサンプルトレーにセットされ検査がスタートした後、スライドは 内部のローターのセグメントに決まった順番で挿入されます。
   TPとBUNの挿入されたセグメントの場所によって機器はNH<sub>3</sub>の検査結果に影響が出たと検知します。



① TPもしくはBUNをNH<sub>3</sub>と一緒に測定して影響を与える場合



ローター内で、<u>NH<sub>3</sub>の 隣に</u>TP もしくは BUN が挿入されると NH<sub>3</sub>の検査結果に影響を与えるため、エラーが表示されます。

② TPもしくはBUNを測定した直後の検査が影響を与える場合



TP もしくは BUNを測定した<u>直後の検査で、NH<sub>3</sub>が同じ位置に</u> 挿入されると NH<sub>3</sub>の検査結果に影響が出るため、エラーが表示 されます。

尚、サンプルトレーに試薬スライドをセットする際には NH₃の 次にTP もしくは BUN を重ねても問題ありません。

#### (参考情報)カタリストOneのスライドの入り方について

- ・試薬スライドは一度に25枚までセット可能ですが、19枚以上は機械が2回に分けて検査を 自動で進めます。
- ・スライドは セットされた順に機器内部に挿入されますが、
   最初の9枚目までは ローターの奇数の位置 (1~17)に入り、
   次に 10枚目以降は ローターの偶数の位置 (2~18)に入ります。

#### ■ 試薬スライド・クリップをセットする時の注意点

- Chem 1 O、TP もしくは BUNを<u>単独で</u>測定後、次の測定で NH<sub>3</sub> を含む検査をする場合 必ず1時間置いてから測定してください。
- ・複数の試薬スライドやクリップをセットする順番については、 「第4章 4-3:試薬スライド・クリップをセットする順番」を確認ください。

### ロ4-5:電解質検査用試薬 Lyte4クリップ ご利用上の注意

- 保管方法について
  - ・ 未開分の状態で冷凍保管してください。
  - 未開封の状態で最長8時間まで室温に置くことができます。
     注意)最大5回まで冷凍庫に再保管が可能です。
- 取り扱いについて
  - 冷凍庫から取り出した後、室温に戻す必要はありません。
  - 開封後は2分以内に機器にセットしてご使用ください。(他の専用試薬クリップや試薬スライドは 開封から5分以内です。)
  - 他の専用試薬クリップや試薬スライドとの同時測定が可能です。
    - ただし、以下のようにセットする順番に気をつけてください。
      - ▶ ChemクリップやNH₃以外の単項目と同時測定する場合、必ずLyte4クリップを最初 (一番下)にセットしてください。
      - ▶ ただし、NH₃スライドと同時測定する場合、必ずNH₃スライドを最初(一番下)にセットしてください。
- 測定について
  - Lyte 4 クリップは希釈測定ができません。
  - NaとKを含んだLyte4クリップをChem17、Chem15、Chem10クリップと同時測定した 場合は、演算項目としてOsm Calc(浸透圧計算値)が追加されます。 この数値は糖尿病、腎疾患、高浸透圧症候群などの指標としてご利用いただけます。

### □ 4-6: UPC (尿中タンパク/クレアチニン比) 試薬 ご利用方法

- ご注意事項について
  - クリップや他の試薬スライドとの同時測定はできません。
  - 採尿後はできるかぎり2時間以内に測定してください。冷蔵保管する場合は、24時間以内に 測定してください。冷蔵した場合は、測定前に15~30分間ほど室温で放置し、常温に 戻してください。
- 測定に必要な備品について
   UPROとUCREスライド(各6枚、計12枚/箱)



<u> 冷凍保管</u>

● UPC専用希釈液



- 検体準備方法について
  - 尿検体を遠心分離器にかけます。(※)
  - カタリスト専用のサンプルカップに尿検体300 µlを分注します。
     ※遠心分離器の速度と時間は、5分/2,000 rpmに設定してください。
     ※スタットスピンをお使いの場合は、尿モードに設定してください。
     (45秒/9,800 rpm)
     ※カタリスト機器本体に内蔵された遠心器は全血セパレーター専用のため使用不可です。
     ※5,000から6,000 rpm程度のスピードの遠心器をお使いの場合は、3分程度適応
    - ※ 5,000から6,000 rpm程度のスピードの遠心器をお使いの場合は、3分程度遠心 を行い、結晶などが分離していることをご確認ください。
- 検査手順について ※ 「第1章 1-4:患者情報入力と測定」をご参照ください。
  - 1 ベットラボステーション画面で「Catalyst One」アイコン、次に【UPC測定】を押します。
  - 2 「UPC尿蛋白/クレアチニン比」の画面で、【手順説明】を押します。
  - 3 「UPCの手順説明」画面に従い、必要なサンプルと備品をサンプルトレーにセットし、 トレーを閉じてから【OK】を押します ※ UPC専用希釈液を300µlを分注したサンプルカップと、希釈用の空のサンプルカップも 必要です。
    - ※ ピペットチップは全てセットしてください。

※ UPROスライド、UCREスライドをセットする順番はどちらからでもかまいません。

- 4 【**測定**】を選択し、本体のスタートボタン押して検査をスタートします。 検体濃度により若干異なりますが、約10分で検査が終了します。
- 検査結果について
  - UPC検査の基準値 犬:< 0.5 猫:< 0.4</li>

UPC = UPROの値 ÷ UCREの値

- UPROの測定範囲:5~400 mg/dL
- UCREの測定範囲: 6~350 mg/dL

#### □ 4-7:総サイロキシン(トータルT4) 試薬 ご利用方法

- 保管方法について
  - 未開封の状態で冷蔵保管してください。凍結しないでください。
  - 未開封の状態で最長8時間まで室温に置くことができます。
     注意)最大5回まで冷蔵庫に再保管が可能です。
- 検体準備方法について
  - 1 全血をご利用の場合は、全血セパレーターに入れてください。
  - 2 血清、または血漿をご利用の場合は、サンプルカップに入れてください。
- ご注意事項について <u>※以下「トータルT₄」と省略</u>
  - ・ クリップや他の試薬スライドとの同時測定が可能です ※UPCは同時測定できません。
  - 希釈測定はできません。
  - 一つの包装紙にトータルT4の試薬スライド と 試薬カップ が セットで入っています。同じ包装紙に入っているものをセットで ご使用ください。



- ・ 他の試薬スライドと同時に測定する場合は、トータルT4試薬スライドを一番最後(一番上)に セットしてください。 <u>※CRPまたはSDMAと一緒にセットする場合、CRPまたはSDMAを最後</u>
- 検査手順について ※ 「第1章 1-4:患者情報入力と測定」をご参照ください。
  - 1 検査機器の選択画面で「Catalyst One」アイコンを選択します。
  - 2 サンプルトレーを開き、サンプル、試薬スライド、試薬カップ、ピペットチップをセットします。
     ※ <u>ピペットチップを全てセット</u>してください。



検体量

・全血セパレーター使用時: 600~800 µl
 ・血漿もしくは血清使用時※サンプルカップに入れてください。

単独測定:<u>65µl</u> 他のスライドと同時セットする場合は、 「第4章 4-1:必要サンプル量一覧表、

クリップの詳細」を参照ください。

- 3 サンプルトレーを閉じ、【測定】を選択します。
- 4 機器本体のスタートボタンを押して検査をスタートします。検体濃度により若干異なり ますが、約15分で検査が終了します。

■ 検査結果について

トータルT4検査の基準値 トータルT₄の測定範囲 •犬 1.0~4.0 µg/dL ・犬 0.5~10.0 µg/dL ・猫 0.5~20.0 µg/dL •猫 0.8∼4.7 µg/dL トータルT<sub>4</sub>検査値の解釈 猫: <0.8 µg/dL 低值 犬: <1.Ο μg/dL 低値 1.0~2.0 µg/dL 正常範囲内低值 0.8-4.7 µg/dL 正常値 1.0~4.0 µg/dL 正常值 2.3-4.7 µg/dL グレーゾーン >4.0 µg/dL 高値 >4.7 µg/dL 高值 2.1~5.4 µg/dL 治療域

#### □ 4-8:C反応性蛋白(CRP) 試薬 ご利用方法

- 保管方法について
  - 未開封の状態で冷蔵保管してください。凍結しないでください。
  - 未開封の状態で最長8時間まで室温に置くことができます。 注意) 最大5回まで冷蔵庫に再保管が可能です。
- 検体準備方法について
  - 1 全血をご利用の場合は、全血セパレーターに入れてください。
  - 2 血清、または血漿をご利用の場合は、サンプルカップに入れてください。
- ご注意事項について <u>※以下「CRP」と省略</u>
  - 犬専用です。
  - クリップや他の試薬スライドとの同時測定が可能です。 ※UPCは同時測定できません。
  - 希釈測定(自動·手動)が可能です。
  - 一つの包装紙に CRPの 試薬スライド と 試薬カップがセットで 入っています。同じ包装紙に入っているものをセットでご使用 ください。



 他の試薬スライドと同時に測定する場合、CRP試薬スライドを一番最後(一番上)にセットして ください。試薬カップの位置は手前で奥でもどちらでも良いです。

> ※トータルT4と一緒にセットする場合、CRPを最後 ※SDMAと一緒にセットする場合、SDMAを最後

- 検査手順について ※ 「第1章 1-4:患者情報入力と測定」をご参照ください。
  - 1 検査機器の選択画面で「Catalyst One」アイコンを選択します。
  - 2 サンプルトレーを開き、サンプル、試薬スライド、試薬カップ、ピペットチップをセットします。 ※ ピペットチップを全てセットしてください。



CRPスライド

検体量

- ・全血セパレーター使用時:600~800 µl
- ・血漿もしくは血清使用時※サンプルカップに入れてください。 単独測定:100 µl 他のスライドと同時セットする場合は、

第4章:補足資料「4-1:必要サンプル量一覧表、

クリップの詳細」を参照ください。

- 3 サンプルトレーを閉じ、【測定】を選択します。
- 4 機器本体のスタートボタンを押して検査をスタートします。検体濃度により若干異なり ますが、約8分で検査が終了します。 ※ 他のスライドと測定した場合、約12分かかります。
- ※ 希釈測定を行う場合は、CRPの 試薬スライド と 試薬カップ をセットし、 「第1章1-6:希釈測定」もご参照ください。
- 検査結果について

#### CRP検査の基準値

•犬 0.0~1.0 mg/dL

CRP検査の測定範囲

•犬 0.1~10.0 mg/dL

### □ 4-9: SDMA セットご利用方法

- 保管方法について
  - ・ 未開封の状態でクリップとCREAは冷凍してください。
  - 未開封の状態でSDMAとBUN冷蔵保管してください。SDMAは凍結しないでください。
  - 未開封の状態で最長8時間まで室温に置くことができます。
     注意)最大5回まで冷蔵庫に再保管が可能です。
- 検体準備方法について
  - 1 全血をご利用の場合は、全血セパレーターに入れてください。
  - 2 血清、または血漿をご利用の場合は、サンプルカップに入れてください。
- ご注意事項について
  - UPCは同時測定できません。
  - 希釈測定はできません。
  - ・ 冷凍した検体の使用は推奨しておりません。冷凍していない検体で測定してください。
  - 一つの包装紙に SDMAの 試薬スライド と 試薬カップがセットで 入っています。同じ包装紙に入っているものをセットでご使用 ください。
  - SDMAを一番最後(一番上)にセットしてください
     ※トータルT4またはCRPと一緒にセットする場合、SDMAを最後



- 検査手順について ※ 「第1章 1-4: 患者情報入力と測定」を参照ください。
  - 1 検査機器の選択画面で「Catalyst One」アイコンを選択します。
  - 2 サンプルトレーを開き、サンプル、試薬スライド、試薬カップ、ピペットチップをセットします。
     ※ <u>ピペットチップを全てセット</u>してください。



検体量

- 全血セパレーター使用時:
   600~800 µl
- ・血漿もしくは血清使用時 ※サンプルカップに入れてください。 「第4章 4-1:必要サンプル量一覧表、クリップの 詳細」を参照ください。
- ,--, SDMAを単独測定する場合
  - 検体量:65µl
  - 測定時間:約10分
- 3 サンプルトレーを閉じ、【測定】を選択します。
- 4 機器本体のスタートボタンを押して検査をスタートします。検体濃度により若干異なり ますが、約11分で検査が終了します。

● 検査結果について

SDMA検査の基準値

- ・犬(成犬・シニア) 0~14 µg/dL (子犬) 0~16 µg/dL
- 猫(子猫・成猫・シニア) O~14 µg/dL

SDMA検査の測定範囲

• 0  $\sim$  1 0 0  $\mu$ g/dL

# カタリスト 参考基準値一覧表

		犬		猫			
項目	単位	子犬	成犬	シニア	子猫	成猫	シニア
ALB	g/dL	2.1~3.6	2.3~4.0	2.2~3.9	2.2~3.9	2.2~4.0	2.3~3.9
ALKP	U/L	46~337	23~212	23~212	14~192	14~111	14~111
ALT	U/L	8~75	10~125	10~125	12~115	12~130	12~130
AMYL	U/L	300~1300	500~1500	500~1500	500~1400	500~1500	500~1500
AST	U/L	0~50	0~50	0~50	0~32	0~48	0~48
BUN	mg/dL	7~29	7~27	7~27	16~33	16~36	16~36
Ca	mg/dL	7.8~12.6	7.9~12.0	7.9~12.0	7.9~11.3	7.8~11.3	7.8~11.3
CHOL	mg/dL	100~400	110~320	110~320	62~191	65~225	65~225
СК	U/L	99~436	10~200	10~200	0~394	0~314	0~314
CREA	mg/dL	0.3~1.2	0.5~1.8	0.5~1.8	0.6~1.6	0.8~2.4	0.8~2.4
GGT	IJ	0~2	0~11	0~11	0~1	0~4	0~4
GLU	mg/dL	77~150	74~143	70~143	77~153	74~159	71~159
LDH	U/L	0~273	40~400	40~400	0~1128	0~798	0~798
LIPA	U/L	100~1500	200~1800	200~1800	40~500	100~1400	100~1400
Mg	mg/dL	1.20~2.04	1.40~2.38	1.40~2.38	1.62~2.23	1.50~3.00	1.50~3.00
NH3	µmoL/L	0~99	0~98	0~98	0~95	0~95	0~95
PHOS	mg/dL	5.1~10.4	2.5~6.8	2.5~6.8	4.5~10.4	3.1~7.5	3.1~7.5
TBIL	mg/dL	0.0~0.8	0.0~0.9	0.0~0.9	0.0~0.9	0.0~0.9	0.0~0.9
TP	g/dL	4.8~7.2	5.2~8.2	5.2~8.2	5.2~8.2	5.7~8.9	5.7~8.9
TRIG	mg/dL	0~33	10~100	10~100	8~54	10~100	10~100
URIC	mg/dL	0.0~1.0	0.0~1.0	0.0~1.0	0.0~1.0	0.0~1.0	0.0~1.0
GLOB	g/dL	2.3~3.8	2.5~4.5	2.5~4.5	2.8~4.8	2.8~5.1	2.8~5.1
Na	mmo ] /L	145~157	144~160	144~160	150~165	150~165	150~165
K	mmo ] /L	3.5~5.5	3.5~5.8	3.5~5.8	3.7~5.9	3.5~5.8	3.5~5.8
CI	mmo ] /L	105~119	109~122	109~122	115~126	11.2~129	11.2~129
SDMA	µg/dL	0~16	0~	<del>~</del> 14		0~14	
UPC	µg/mL		<0.5			<0.4	
			$1.0 \sim 4.0$			$0.8 \sim 4.7$	
TT4	µg/dL	低值正常範囲内	3低值 正常值	高個治療域	低値  正常	『値 グレー	ソーン 高値
		<1.0 1.0~2	$2.0   1.0 \sim 4.0$	>4.0 2.1-5.4	< 0.8 0.8 -	~4.7 2.3	~4.7 >4.7
FRU	µmoL/L	$\frac{1/(\sim 314}{2000000000000000000000000000000000000$			$191 \sim 349$		
CRP	mg/dL	0.0-1.0					

# カタリスト 測定範囲一覧表

項目	U.S Units	S.I Units	French Units
ALB	0.1-6.0 g/dL	1-60 g/L	1-60 g/L
ALKP	10-2000 U/L	10-2000 U/L	10-2000 U/L
ALT	10-1000 U/L	10-1000 U/L	10-1000 U/L
AMYL	5-2500 U/L	5-2500 U/L	5-2500 U/L
AST	0-1083 U/L	0-1083 U/L	0-1083 U/L
BUN	2-130 mg/dL	0.6-46.4 mmol/L	0.034-2.730 g/L
Са	1.0-16.0 mg/dL	0.25-4.00 mmol/L	10-160 mg/L
CHOL	6-520 mg/dL	0.16-13.44 mmol/L	0.06-5.20 g/L
СК	10-2036 U/L	10-2036 U/L	10-2036 U/L
CI	50-160 mmol/L	50-160 mmol/L	50-160 mmol/L
CREA	0.1-13.6 mg/dL	9-1202 µmol/L	1.0-136.0 mg/L
CRP	0.1-10.0 mg/dL	1.0-100.0 mg/L	1.0-100.0 mg/L
FRU	100-1000 µmol/L	100-1000 µmol/L	100-1000 µmol/L
GGT	0-952 U/L	0-952 U/L	0-952 U/L
GLU	10-686 mg/dL	0.56-38.11 mmol/L	0.10-6.86 g/L
K	0.8-10 mmol/L	0.8-10 mmol/L	0.8-10 mmol/L
LDH	50-2800 U/L	50-2800 U/L	50-2800 U/L
LIPA	10-6000 U/L	10-6000 U/L	10-6000 U/L
Mg	0.5-5.2 mg/dL	0.21-2.17 mmol/L	5.0-52.0 mg/L
Na	85-180 mmol/L	85-180 mmol/L	85-180 mmol/L
NH3	0-950 µmol/L	0-950 µmol/L	0-950 µmol/L
PHOS	0.2-16.1 mg/dL	0.06-5.19 mmol/L	2.00-161.00 mg/L
SDMA	0-100 µg/dL	0-100 µg/dL	0-100 µg/dL
TBIL	0.1-27.9 mg/dL	2-477 µmol/L	1.0-279.0 mg/L
TP	0.5-12.0 g/dL	5-120 g/L	5-120 g/L
TRIG	10-375 mg/dL	0.11-4.23 mmol/L	0.10-3.75 g/L
TT4(犬)	0.5-10.0 µg/dL	6.43-128.7 nmol/L	6.43-128.7 nmol/L
TT4(猫)	0.5-20.0 µg/dL	6.4-257.4 nmol/L	6.4-257.4 nmol/L
UCRE	6-350m g/dL	0.06-3.50 g/L	0.06-3.50 g/L
UPRO	5-400 mg/dL	0.05-4.00 g/dL	0.05-4.00 g/dL
URIC	0.1-20 mgdL	6-1190 µmol/L	0.1-20 mgdL

# アイデックスお客様専用サイト

弊社製品とサービスをご利用頂いているお客様には、「アイデックスお客様専用サイト」を 開設しております。学術や製品情報を24時間365日、パソコン、スマートフォンやタブレット からご覧いただけるよう公開しております。

アイデックス お客様専用サイト: <u>www.idexxjp.com</u> 【登録方法】

トップページ右上の「Login」内の「新規登録」のリンクを開き、登録を行ってください。 登録完了後、ユーザーIDとパスワードが発行されます。



#### 一歩先行く外注検査サービス

信頼性と正確性が求められる外注検査。アイデックスでは、健康診断と いったスクリーニング検査から、特殊検査(や組織病理・細胞誌といっ た専門的な検査サービスまで多彩な検査項目をご提供しています。 本サイトでは、最新の学術情報や検査項目情報、検査依頼ノウハウ、 そして、試験豊富なアイデックス診断医の症例などをご紹介します。



※ 新規開業された場合、電話番号を変更された場合は、ユーザーID及びパスワードが発行できない場合がございます。 お手数ですが弊社 お客様専用サイト担当者 (marketing-jp@idexx.com) 宛にメールにてご連絡ください。

### 本装置のご使用上の注意

- ◆ 本装置を分解、改造しないこと。
- ◆本装置の取扱いには十分注意すること。本体を落としたり、強く振動させると内部の メカニズム、電気回路、メモリーや光学系に障害を起こすおそれがあるので、 衝撃を与えないように注意すること。
- ◆ 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置しないこと。
- ◆ 湿度の高い場所、直射日光が当たる場所、ほこりの多い場所などには設置しないこと。
- ◆ 電気的ノイズを発生するものや、強い磁界を発生する装置の近くには設置しないこと。
- ◆ 必ず熱源や火気から離れた場所に設置すること。
- ◆ 流しや洗面台などの水周りの場所を避けて設置すること。
- ◆ 設置の際は、本装置の換気口を塞がないように注意すること。
- ◆ 電源の周波数(50~60 Hz)と電圧(100~240 V AC)を十分に確認し、付属の 電源コードを使用すること。また、コードの接続が正確かつ安全であることを確認すること。
- ◆ 取扱説明書に従い、正しい操作をすること。
- ◆ サンプルの取扱いには十分注意すること。
- ◆ 測定に使用したサンプル・試薬・チップなどは、地方公共団体の定める条例等に従い処分すること。
- ◆ 下記のような液体、研磨剤やエアゾールスプレーを本体に、もしくは本体の側で使用しないこと。
  - 有機溶剤
  - アンモニア含有のクリーナー
  - 油性ペン
  - 揮発性物質含有スプレー
  - 殺虫剤
  - 消毒液
  - 研磨剤
  - 室内空気洗浄剤
- ◆ 以下のような場合は電源ケーブルを取り外すこと。
  - ・ ケーブルが磨耗しているか、或いは破損している場合
  - 本体に液体などをこぼした場合
  - 湿度が極端に高くなった場合
  - 本体を落としたり、ケースを破損したりした場合
  - ・ メンテナンスや修理が必要と思われる場合
  - 機器本体をクリーニングする場合

※ 指定の設置条件・使用方法以外で使用した場合、装置の保護機能が無効になることがあります。

# カタリストスライド (カタリストスライドGGT、TBIL、 PHBR、UPRO、UCRE、FRUを除く) における使用上の注意

[一般的注意]

1)定められた使用方法を厳守すること。 2)本スライドは、使用目的において定められた目的にのみ使用すること。

# [取扱い上の注意]

1)カタリストスライドの測定には、専用の分析装置を用いること。

2)アルミ箔の袋の開封後は5分以内(Lyte4クリップは2分以内)に使用すること。

3)アルミ箔の袋に入った状態であれば、最長8時間までは室温に放置することができる (最大5回まで冷蔵庫/冷凍庫に再保管が可能)。

4)検査を行う血液を採取後、すぐに遠心分離を行う。血漿検体には、抗凝固剤として リチウムヘパリンを用いること。

5) 測定に使用した検体・試薬などは、地方公共団体条例等に従い処分すること。

# [保管上の注意]

# カタリストスライドGGTにおける使用上の注意

# [一般的注意]

1)定められた使用方法を厳守すること。

2)本スライドは、使用目的において定められた目的にのみ使用すること。

# [取扱い上の注意]

1)カタリストスライドの測定には、専用の分析装置を用いること。

2)アルミ箔の袋の開封後は5分以内に使用すること。

3)アルミ箔の袋に入った状態であれば、最長8時間までは室温に放置することができる (最大5回まで冷蔵庫に再保管が可能)。

4)検査を行う血液を採取後、すぐに遠心分離を行う。血漿検体には、抗凝固剤として リチウムヘパリンを用いること。

5) 測定に使用した検体・試薬などは、地方公共団体条例等に従い処分すること。

6)犬の正常検体に含まれるガンマ-グルタミルトランスフェラーゼ(GGT)活性が極めて低く正常範囲内 の検体を測定する場合、その値は精度が低いものになりやすい。しかし、GGT活性が上昇する異常レベ ルにおいては、精度よく測定することができる。

# [保管上の注意]

# カタリストスライドTBILにおける使用上の注意

# [一般的注意]

1)定められた使用方法を厳守すること。 2)本スライドは、使用目的において定められた目的にのみ使用すること。

# [取扱い上の注意]

1)カタリストスライドの測定には、専用の分析装置を用いること。

2)アルミ箔の袋の開封後は5分以内に使用すること。

3)アルミ箔の袋に入った状態であれば、最長8時間までは室温に放置することができる (最大5回まで冷凍庫に再保管が可能)。

4)検査を行う血液を採取後、すぐに遠心分離を行う。血漿検体には、抗凝固剤としてリ チウムヘパリンを用いること。

5) 測定に使用した検体・試薬などは、地方公共団体条例等に従い処分すること。

6)犬、猫の正常検体に含まれる総ビリルビン量が極めて微量であり、正常範囲内の検体を測定する場合、 その値は精度が低いものになりやすい。しかし、総ビリルビン量が上昇する異常レベルにおいては、 精度よく測定することができる。

# [保管上の注意]

# カタリストスライド**UPRO**及び**UCRE**(**UPC**測定) における使用上の注意

# [一般的注意]

1)定められた使用方法を厳守すること。 2)本スライドは、使用目的において定められた目的にのみ使用すること。

# [取扱い上の注意]

1)カタリストスライドの測定には、専用の分析装置を用いること。 2)アルミ箔の袋の開封後は5分以内に使用すること。 3)アルミ箔の袋に入った状態であれば、最長8時間までは室温に放置することができる

(最大5回まで冷凍庫に再保管が可能)。

4)血色素尿は、UPCの測定値に影響を及ぼすことがあるため、使用しないこと。

5) 測定に使用した検体・試薬などは、地方公共団体条例等に従い処分すること。

# [保管上の注意]

# カタリストスライドFRUにおける使用上の注意

[一般的注意]

1)定められた使用方法を厳守すること。 2)本スライドは、使用目的において定められた目的にのみ使用すること。

# [取扱い上の注意]

1)カタリストスライドの測定には、専用の分析装置を用いること。

2)アルミ箔の袋の開封後は5分以内に使用すること。

3)アルミ箔の袋に入った状態であれば、最長8時間までは室温に放置することができる

(最大5回まで冷凍庫に再保管が可能)。

4)検査を行う血液を採取後、すぐに遠心分離を行う。

血漿検体には、抗凝固剤としてリチウムヘパリンを用いること。

5)著しい溶血検体または著しい黄疸が見られる検体/ビリルビン血検体は、FRUの測定値に影響を及ぼす。

6) 測定に使用した検体・試薬などは、地方公共団体条例に従い処分すること。

# [保管上の注意]